

## 特別寄稿

### 熊本地震発生直後の日本医療マネジメント学会学術総会開催

飯塚病院院長 増本陽秀

熊本地震は2016年4月14日(木)夜の前震に始まり、続いて16日(土)深夜に本震が発生し、その後も長い期間にわたって大小の地震を繰り返し、熊本地方を中心に大きな被害をもたらしました。尊い命を失われた方々に深い哀悼の意を表し、被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。

飯塚病院は、前震発生後直ちに災害派遣医療チーム(DMAT)の出動準備を開始し、DMAT第一陣は15日(金)午前2時過ぎに当院を出発して現地に入り、16日(土)未明からの本震の中で任務を果たしました。続いてDMAT第二陣が出動し、さらに日本プライマリケア連合学会災害医療支援チーム(PCAT)、災害支援ナース、検査技師チームが被災地支援に向かいました。

第18回日本医療マネジメント学会学術総会は、4月22日(金)～23日(土)の福岡市開催を予定していました。田中二郎名誉院長を会長として、2年前から飯塚病院の総力をあげて準備を進めてきましたが、本震発生後も大きな地震が頻発していつ収束するとも知れず、参加者4,000人を見込むこの学術総会の開催の是非につき難しい判断を迫られました。高速道路が陥没し、新幹線が停止して交通網が断たれ、熊本以南から福岡への移動が困難な上、全国からの参加者も大きく減ることが予測されます。医療関係者が被災地支援に向かう際に、学術総会への参加が足かせとなることも懸念されました。熊本地震が前震から本震に進展した状況で、今後さらに学術総会開催地である福岡市が大きな地震に襲われる可能性はないのか。参加者の安全、交通手段、参加者激減の際の運営収支や、そもそも開催は可能なのかなど、いくら考えてもきりのない問題、課題が山積する中で決断が求められました。

学術総会初日まで1週間を切った16日(土)の本震発生当日、開催か中止か、確認の問合せが朝から学術総会事務局に殺到しました。同日夕刻、方針決定のため招集した実行委員会幹部緊急会議は、誰もが開催中止または延期を念頭に置いて重い空気に包まれ、長い議論となりました。予定通り開催、開催延期、開催中止のいずれの場合も、それぞれ大きな問題がありました。容易に結論が出ず堂々巡りを繰り返す中で、田中会長の一言が会議の膠着を破りました。「これまで自分は、迷った時はいつも前に進む道を選んできた。後悔はしたくない。今回も前に進みたい。」そしてついに、こういう時こそ九州で学術総会を開き、被災地へ応援、支援を送ろうと議論が展開し、予定通り開催の結論に至

りました。日本医療マネジメント学会事務局は熊本市にあり、統括者である宮崎理事長は、自宅が被災半壊してやむなく車中泊しておられました。日もすっかり落ちた緊急会議の会議室から、予定通り開催したい旨を田中会長が電話でお伝えしたところ、宮崎理事長は直ちに快諾され、学術総会開催が決定しました。

参加者の激減を覚悟しましたが、約3,800人の参加があり、被災地への募金やチャリティ懇親会に賛同いただきました。急遽企画した被災地緊急報告会では、宮崎理事長ご自身に地震発生時の模様と被災体験をお話しいただき、被災地から帰還したばかりのDMAT隊員、PCAT隊員が現地報告を行い、生々しい被災状況に参加者は胸をつまらせました。特別講演、シンポジウム、一般演題の演者の方々もほぼ予定通り参集いただき、各セッションで活発な討議が行われました。

学術総会初日夕刻の懇親会では、病院職員の生演奏に合わせて、新人看護師で結成されたIKB48(Iizuka Kango Beginners)と共に、被災地への応援メッセージを込めた歌を参加者全員で歌いました。最後のクライマックスとなったZARDの“負けないで”は、被災地への思いを込めて会場割れんばかりの大合唱となりました。実はこの“負けないで”は、地震発生のずっと以前に田中会長が選曲されたものであり、全国からの学術総会参加者と一緒に被災地に向けてこの曲を歌う展開は、関係者にとって奇跡を見る思いでした。

学術総会のテーマは「明るい病院改革～改善とイノベーションで切り拓く明日の最適医療～」であり、職員は背中に桜の花びらを散らしたユニフォームに身を包み、明るく元気いっぱい学術総会運営にあたりました。この困難な状況での彼らの姿は、「飯塚病院の団結力はすごい」と全国の参加者をうならせました。学術総会本来の目的を達成し、さらに被災地にまごころを届けて学術総会は成功を収め、劇的で感動に満ちた経験となりました。学術総会開催にご支援、ご助力くださった全国の皆様方に心からお礼を申し上げますと共に、一丸となって全てを支えてくれた職員のまごころに深く感謝するところです。

最後に改めて、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

## 開催報告

### 分科会等

#### 2016年度医療福祉連携講習会に参加して

西堀病院企画室・地域包括支援部 齊藤眞樹

医療福祉の連携は、地域包括ケアシステムである地域の包括的な支援・サービスの提供体制構築にあたり重要となってくるものです。そこで、医療福祉分野の